

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K04218

研究課題名(和文) 高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援モデルの構築

研究課題名(英文) Building of an interprofessional support model between welfare and medical services for community care of elderly persons with mental disorders

研究代表者

大西 次郎(OHNISHI, Jiro)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：20388797

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域で高齢精神障害者の生活支援を担う福祉職と医療職の連携を推進する、実践モデルの構築を試みた。その結果、以下を得た。1) 福祉職には、業種の別を超えた高齢精神障害者への内的な心構えや、エンドオブライフケアを介して共有される専門職意識とともに、医療職とは異なる固有のアプローチが認められた。2) 施設内で高齢者をケアする福祉職において、適応的なフラストレーション反応の意義が示された。3) 連携をジェネリックなソーシャルワークの構造内で把握する必要性が導かれた。4) 近隣住民による認識や態度が、高齢精神障害者の地域移行・地域定着に及ぼす影響にふれた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

在宅ケアを受ける高齢精神障害者が地域移行・地域定着支援の進捗によって増え、福祉職と高齢精神障害者が接する機会は大きく広がった。そうしたなか、医療職が中心になる病院という枠を超えた、多様なメンタルヘルス上の地域課題への対応がソーシャルワーカー全体に求められていることを明らかにした。すなわち、福祉職と医療職の関わりというスペシフィックな側面にとどまらず、福祉職間の連携もまた問われている。さらに近隣住民の意識が、多様化した社会的リスクにさらされる当事者として、質的に変化してきている近況を導いた。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to construct a practical model to promote interprofessional work between welfare and medical professionals who are responsible for supporting the lives of mentally disabled elderly persons in the community. As a result, the following findings were made: 1) Welfare professionals showed inner preparedness for elderly persons with mental disorders that crosses their occupational boundaries, as well as unique approaches that are different from those of medical workers along with a sense of professionalism shared through end-of-life care. 2) The significance of adaptive frustration responses among welfare professionals caring for elderly persons in care settings was demonstrated. 3) The need to understand interprofessional work within a generic social work structure was indicated. 4) The impact of the neighborhood's attitude and perception on the transition and settlement of mentally disabled elderly people in the community was identified.

研究分野：社会科学

キーワード：専門職連携 多職種連携 精神保健福祉 医療福祉 介護福祉 メンタルヘルス 医療ソーシャルワーカー 精神科ソーシャルワーク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

在宅ケアを受ける高齢精神障害者が、地域移行・地域定着支援の進捗により増えている。すなわち、高齢精神障害者の生活の場が地域に移行し、65歳超の介護保険優先利用によって訪問介護を担うホームヘルパーや介護福祉士（訪問介護員等）と精神障害者が関わる場は大きく広がった。ただし訪問介護員等は精神障害者、とくに統合失調症や気分障害を有する利用者に対しての知識や経験が十分でない。訪問介護員等は精神科診療所や行政の保健師等、医療職との効果的な連携を求めている。一方、医療職側も居宅生活での多様なニーズへ対応するチームアプローチの重要性を認識しており、高齢精神障害者に対する地域での職種をまたいだ支援環境の整備は喫緊の課題である（図）。

しかし、現況では連携はもちろん、共通言語の確認さえ遅れている。今後の地域移行・地域定着のさらなる推進には、高齢精神障害者全般への居宅生活基盤の整備が急務となっている。

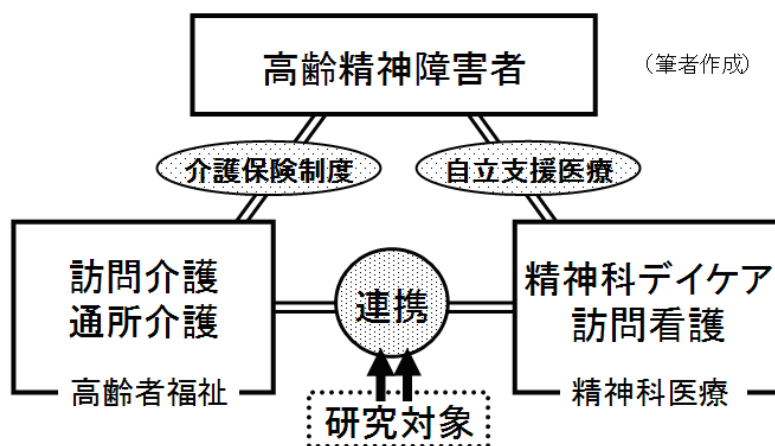


図 高齢精神障害者を支援する地域医療-福祉協働

2. 研究の目的

地域で高齢精神障害者に接する福祉職と医療職の連携を推進する実践モデルを構築する。そして、研究を通して身体障害者と異なった、精神障害者の「一疾病と障害の併存という」医療の不可欠さは、医学的管理から離れられないとする諦念ではなく、医療を包括した生活支援の大切さの表れであるという共通認識をチームに育んでいく。高齢者福祉と保健医療の相互理解が、各々の独自性に基づき果たされてこそ、連携は実を結ぶからである。こうした目的のため、地域における高齢精神障害者の生活支援に必要な介護場面を明確化し、訪問介護員等の福祉職としての資質向上と、医療職からの訪問介護員等への専門性に対する理解の双方を促す。

3. 研究の方法

(1) 2017（平成29）年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2017（平成29）年度は地域で暮らす精神障害者とかかわる介護・看護職に向けた、援助実態の調査を行った。

(2) 2018（平成30）年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2018（平成30）年度は地域で暮らす精神障害者とかかわる介護・福祉職に向けた、専門性に対する意識や地域住民との間の相互作用に関する調査を行った。

(3) 2019 (平成31/令和1) 年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2019 (平成31/令和1) 年度は専門職 (介護・福祉・看護) ならびに近隣住民との連携・相互作用のもと、高齢精神障害者に向けた地域ケアの構築を推進させる要件について3年間にわたる研究の総括を行った。

4. 研究成果

(1) 2017 (平成29) 年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2017 (平成29) 年度は地域で暮らす精神障害者とかかわる介護・看護職に向けた、援助実態の調査を行った。その結果、以下を導いた。

1) 福祉と医療の垣根が低くなって、訪問介護員等による高齢者福祉と精神科医療を架橋する役割があらためて強調され (地域ケアリング 19(4), 60-64), さらに, 2) 施設内で高齢者をケアする介護職における, 適応的なフラストレーション反応の意義が示された (佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集 6, 169-178)。また, 3) 専門職連携を福祉と医療の関わりというスペシフィックな側面だけにとどめず, 障害, 児童家庭, 高齢者などを含むジェネリックなソーシャルワークの構造内で把握する必要性に言及し (地域ケアリング 19(9), 68-72), 加えて, 4) 援助者からの視点に限らず近隣住民による認識や態度が, 精神障害者の地域移行・地域定着に及ぼす影響にふれた (精神科治療学 32(8), 1115-1119)。

発展的な観点として, 5) 精神科ソーシャルワーカーは病院と地域をつなぐ伝統的役割を果たしてきたが, 多職種による包括的支援が展開するなかで, 専門職性を精神科医療の社会的側面への関与と意思・判断の補助推測に回帰させており (医療社会福祉研究 26, 69-83), 6) その活動は精神保健福祉士と区別のうえ吟味されねばならず, 精神科ソーシャルワーカーと精神保健福祉士間の特質差が導かれ得る可能性を述べた (地域ケアリング 19(14), 46-50)。

(2) 2018 (平成30) 年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2018 (平成30) 年度は地域で暮らす精神障害者とかかわる介護・福祉職に向けた、専門性に対する意識や地域住民との間の相互作用に関する調査を行った。その結果、以下を導いた。

1) 介護職には、業種の別を超えて援助者に相通じる高齢精神障害者への内的な心構え (地域ケアリング 21(4), 56-59) や、スピリチュアルケア・エンドオブライフケアを介して共有される職業的要素 (地域ケアリング 20(9), 72-76) がある一方、保健医療職とは異なった固有のアプローチ (地域ケアリング 21(3), 80-83) もまた認められた。さらに, 2) 歴史的に医療機関からの退院支援を担ってきた精神科ソーシャルワーカーは, 地域で活動する専門職の内でもピアサポート参画への親和性が高い (地域ケアリング 20(4), 86-90) かたわら, その精神科ソーシャルワーカーの職責が複数職種間の役割開放に直面している状況を示し, 活動の場や支援対象の変化に由来する精神科ソーシャルワーカーの専門性の流動化を明らかにした (地域ケアリング 20(12), 92-95)。他方, 3) 地域移行・地域定着には住民のなかに溶け込む自然さが待たれるが, 精神障害者に向けた住民からの社会防衛は, 暴力から迷惑へと認識を変えながら現代的な課題であり続けている (精神保健福祉学 6, 4-17)。

高齢精神障害者の地域移行・地域定着がゆっくりとでも着実に進み、今まで以上に職種間連携が大切なことは論をまたない。これに沿って専門職の在り方自体の転換が求められるとともに、住民の意識も質的に変化してきている。とくに後者に関しては、多様化した社会的リスクにさら

される当事者としての把握が欠かせない。

(3) 2019 (平成31/令和1) 年度

高齢精神障害者の地域ケアにおける福祉と医療の連携支援へ臨み、2019 (平成31/令和1) 年度は専門職 (介護・福祉・看護) ならびに近隣住民との連携・相互作用のもと、高齢精神障害者に向けた地域ケアの構築を推進させる要件について3年間にわたる研究の総括を行い、以下を導いた。

精神障害者の生活の場として在宅が重視され、福祉職と精神障害者が接する機会は大きく広がった。さらに、医療職が中心の病院の枠を超える、メンタルヘルス上の多様な地域課題への対応が、精神科ソーシャルワーカーに限らずソーシャルワーカー全体に求められ、福祉職間の連携もまた問われている (地域ケアリング 21(13), 104-108)。そこで福祉職間の連携として、精神科ソーシャルワーカーの活動における「国家資格の別によらない」職種横断的な地域生活支援を示し、Community / Generic Social Worker として時代に応じた社会的リスクに対峙する実践像を提起した (精神保健福祉学 7, 40-53)。加えて、精神科ソーシャルワーカーにおける、外的な行動表現の揺れに動じない内的な価値の維持 (ソーシャルワーカー 19, 3-15) を確認した。

他方、統合失調症者を主とする精神科病院からの地域移行・地域定着支援も精神科ソーシャルワーカー/ソーシャルワーカー全体の責務であり続ける。そこで医療職との連携として、高齢精神障害の病態をわきまえた居宅生活支援が精神科ソーシャルワーカー/ソーシャルワーカー全体に求められる点に言及した (地域ケアリング 22(4), 58-62)。また、精神科領域の医療職によるコンサルテーション・リエゾン活動が、日常診療の理解者を増やし、自己のメンタルヘルスを向上させる (地域ケアリング 21(9), 62-65) と導いた。

高齢精神障害者のなかでも認知症者は、本人の意向を継時的に把握したり、認知症カフェの普及等で家族を支えたりする仕組みが整いつつある。しかし、統合失調症者やうつ病・不安症者などは中年～初老期に至って孤立し、自己表現も不得手で適切な福祉サービスが届けられにくい例も少なくない。2020 (令和 2) 年度より、非認知症高齢精神障害者に絞った福祉と医療の連携を、基盤研究 B (非認知症高齢精神障害者の在宅生活を支える福祉と医療の連携モデル開発と有効性の検証) の代表者 (最終年度前年度応募の採択) として研究する。

ホームページ : 生活科学研究科 教員紹介 総合福祉・心理臨床科学講座

<https://www.life.osaka-cu.ac.jp/professor/#welf>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 19
2. 論文標題 地域包括ケアの時代における「PSWの価値」の再検討 自己決定と権利擁護	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ソーシャルワーカー	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 8
2. 論文標題 医療との架橋役割に再認される精神保健福祉士の存立意義 PSWにおけるSW回帰との対比	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神保健福祉学	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 7
2. 論文標題 地域包括ケアの時代におけるPSWの専門性 「たたかうアイデンティティ」のゆくえ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神保健福祉学	6. 最初と最後の頁 40-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 35(11)
2. 論文標題 若手臨床医との協働からみた精神保健福祉士・社会福祉士の新たな専門職像 地域共生社会の実現(精・社)と医療ユーザーの自己決定支援(精)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1261-1267
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 22(4)
2. 論文標題 自我障害からみた統合失調症者の理解と居宅生活支援 インボランタリークライアントの視点とともに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 21(13)
2. 論文標題 精神保健福祉をめぐる「概念・理論」「価値・倫理」研究数の推移	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 104-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 21(9)
2. 論文標題 中堅医師におけるメンタルヘルスの近況 精神科と他科	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 6
2. 論文標題 精神保健福祉学の展開 非自発的入院と侵害原理からみたソーシャルポリシーの特異性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神保健福祉学	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 21(4)
2. 論文標題 精神障害者にかかわる介護福祉職自身のメンタルヘルス 保健医療職と共通する非特異的生活特徴の理解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 21(3)
2. 論文標題 介護福祉職として自信を持って精神障害者にかかわる 保健医療職によるアプローチとの差異	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 80-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 26
2. 論文標題 精神科ソーシャルワークの「ソーシャルワーク回帰」過程 専門職性における医療ソーシャルワークとの対比	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医療社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 69-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 6
2. 論文標題 特養の看取り介護における適応的なフラストレーション反応 アグレッションの方向(P-Fスタディ)から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 佛教大学総合研究所共同研究成果報告論文集	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 20(12)
2. 論文標題 PSWの「内なる」ライセンス・コンフリクト 専門性を規定する価値基準の流動化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 92-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 20(9)
2. 論文標題 スピリチュアルケアの発展的分化 不条理死にかかわる制度的宗教と先制医療のなかで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 72-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 体験「共有型」メンタルヘルスにおけるPSWの関わり 精神保健 / 精神介護福祉 / 精神保健福祉(感情「共感型」)との対比	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 86-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 32(8)
2. 論文標題 制度依存型スティグマ 現代の社会防衛	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1115-1119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 19(14)
2. 論文標題 地域における「PSWの専門性」をめぐる二つの道 新たな展開 and/or 発展的な収束	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 19(9)
2. 論文標題 原論研究停滞期におけるソーシャルワーク実践の科学化 社会福祉の全体構造	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西次郎	4. 巻 19(4)
2. 論文標題 地域医療-福祉協働をPSW・訪問介護員とともに 精神介護福祉 / 精神福祉(学)という把握	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 60-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 地域包括ケアの時代における自己決定と権利擁護 PSWの価値の再検討
3. 学会等名 日本保健医療社会福祉学会 第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 地域包括ケアの時代におけるPSWの専門性 「たたかうアイデンティティ」のゆくえ
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第8回学術研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 精神科ソーシャルワークの「ソーシャルワーク回帰」過程 専門職性における医療ソーシャルワークとの対比
3. 学会等名 日本医療社会福祉学会 第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 地域における「PSWの専門性」をめぐる二つの道 新たな展開 and/or 発展的な収束
3. 学会等名 日本ソーシャルワーク学会 第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 「制度依存型スティグマ」 現代の社会防衛
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第65回秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大西次郎
2. 発表標題 精神科ソーシャルワークの「ソーシャルワーク回帰」過程 専門職としての回帰，有資格者としての再回帰
3. 学会等名 日本精神保健福祉学会 第6回学術研究集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------